# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料①

【令和5年7月2日　実施】

令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による
評価委員　氏名（小早川 真一、船木 昭治、田中 利哉 、小塩 寛至、深野 明美 、渡辺 真季、森本 幸夫、富永 礼子、松本 佳之、丸茂 美保子、徳山 健司、小澤 庸宏、正木 大吾 、高野 公輔 ）

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | 重点目標 | 評価<br>優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1　教育理念・目的・育成人材像 | 1-2<br>学校の特色は何か | 運営目標の「4つの信頼」と3つの教育（教育理念）をベースに、育成人材目標の達成のため、独自の教育システム（PIBAP）を実践し、学生個人の自主性強化のためPOES教育システムを導入し、社会に貢献し各業界のニーズに即した人材育成を行っている。 | 本校独自のPIBAP教育システムをベースに作成されるカリキュラムに、キャリア教育の視点に立った内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。 | 2.7 | 【高等学校】<br>学生募集の段階から自己発見できるような取り組みの考案をお願いします。<br><br>【歯科技工士学科】<br>卒後教育にもできる限り力を入れていただくとより良くなると感じています。<br><br>【救急救命士学科】<br>自ら考え、行動することは難しいですが、非常に重要なことです。これができる人材育成をお願いします。<br><br>【鍼灸師学科】<br>引き続き目標をもって取り組んでいただきたいと思います。 |
| 2　学校運営 | 2-7<br>人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか | 職員の評価に関しては、人事考課制度を採用し、自己評価および上司からの評価を踏まえ、年度ごとの課題を設定し、教職員の成長や貢献を見える化させることを目標とし実施した。 | 教職員の成長こそが教育の質を高めることに繋がるため、入職後においても適宜研修を行い、常に成長を促していく。また人事考課シートで明らかになった個々の課題への取り組みにおいて、達成できたのか上長が面談を行い、人事評価に繋げていく。 | 2.6 | 【高等学校】<br>教職員がより前向きになる評価をさらに進めてください。<br><br>【歯科技工士学科】<br>人事考課制度の結果の報告をいただきたいです。<br><br>【救急救命士学科】<br>教職員の成長は学校の発展にも繋がります。<br>人事評価もぜひ適切に実施していただきたいです。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・上司・部下関係なく自由に意見を言える職場を維持してください。<br>・様々な視点から評価を行うことで教職員の成長に繋がり、良い取り組みだと思います。<br>・教職員が分け隔てなく意見を言える環境が作られていると実感しました。 |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 知識・技術面においてのみならず、人間性も含めた業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会での意見や講師会議でのすり合わせにより、具体案が明確となり、指導方法にも工夫ができている。またキャリアセンターを中心に行っている業界ガイダンスや業界訪問を通じても多くのご意見をいただき教育に反映することができている。 | 業界の求める人物像という点においては、キャリア教育（求められる社会人像）において指導の工夫が必要である。業界アンケートなども定期的におこない、時代のニーズに合わせた教育を目指す。 | 2.4 | 【歯科技工士学科】<br>・業界アンケートを広くとって参考にしていただきたいです。<br>・業界の問題点など十分に理解した上で色々なニーズに応えられるよう準備・指導が必要だと思います。<br>業界の変化に迅速に対応できるようにしましょう。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・柔道整復師学科国家試験合格率の改善を望みます。<br>・もう少し業界との連携が取れると良いと思います。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか | 国家資格養成校であるため、国家試験の合格が専門職就職に直結する。具体的な取り組みについては、キャリアセンターと教務が連携し、就職情報を求人サイトで連絡、面談を通じ個々の要望に応じた求人の紹介、履歴書添削、面接指導、就職説明会を開催し、幅広い選択肢から自分に合った場所を見つけられるようサポートしている。 | 歯科技工士学科、鍼灸師学科、柔道整復師学科については、質の良い就職先の確保が課題となる。また、毎年本校の卒業生を採用したいと思われる状況をつくっていきたい。救急救命士学科については継続して地方公務員採用試験に合格しうる教育体制を創っていくと同時に民間就職の拡充も目指していく。 | 3.8 | 【高等学校】<br>非常に良好な成果を上げていると感じます。<br><br>【歯科技工士学科】<br>・国家試験100%合格は評価できると思います。<br>今後も100%を目標に頑張っていただきたいです。<br>・情報社会の現代に合わせたコンテンツを用い、学生の希望を叶えられるよう幅広く対応できる体制づくりが必要だと感じます。<br><br>【救急救命士学科】<br>現役生の国試合格はもちろんですが、不合格者には次年度合格できるようサポートをお願いします。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・卒業生を何度か受け入れましたが、この取り組みがあったおかげだと感じています。<br>・他校に比べて就職活動が早期に行われており、学生自身の就職に対する意識も高いと感じています。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・就職先としてグループ院がある整骨院への就職が目立っていますが、個人院やデイサービスにも目を向けていただきたいです。<br>・国家試験の合格率に関して全国平均よりは良いが、改善が必要な数字だと思います。他学科と同水準の合格率が出せるようご指導よろしくお願いします。 |
| 5　学生支援 | 5-26<br>学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。再診率は4年連続100%を達成できた。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。 | 今後も再診率100%を目指して取り組んでいかなければならない。 | 2.8 | 【歯科技工士学科】<br>難しいことですが、学生の精神面のケアもできるとなお良いと思います。<br><br>【救急救命士学科】<br>精神面のサポート体制について詳しくお伺いしたいです。<br><br>【柔道整復師学科】<br>食生活の実態把握と改善にも取り組んでいただきたいです。生活習慣にも繋がると考えます。 |
| 6　教育環境 | 6-33<br>防災に対する体制は整備されているか | 例年、年2回の防災訓練、教職員の救命講習など定期的に実施しており、設備としても各階にAEDを設置するなどしているが、新たに外部機関協力の下、防災研修を実施し、責任者不在で災害が起こっても、どのような教職員でもこのカードを見れば必要なことがわかる『アクションカード』の作成を行った。 | 3月にアクションカードを用いた防災訓練を実施。そこで出た課題からさらによいカード内容にし、必要な非常物資などを揃えるなどし、充実をはかっていく。 | 2.7 | 【高等学校】<br>有事において停電した場合も想定し、内線だけでなく無線の配置も考えればよりレベルアップできると思います。<br><br>【歯科技工士学科】<br>・私自身も地域の消防団に入っていますが、優れていると思います。アクションカードが非常によく、自身でも欲しいぐらいです。<br>・良い訓練だと思いました。具体的に実施されている点がなお良いです。<br><br>【救急救命士学科】<br>・入学時に購入した非常食を卒業時に配布することは学生の意識が高まり、良いと思います。学校から地域への支援も検討いただきたいです。<br>・防災への取り組みは素晴らしいことだと思います。学生を巻き込んで実施できるとより良くなると思います。<br>・ライフラインが障害を起こした場合の取扱いやアクションカードの内容についてもう少し詳しく聞けると良かったです。万一を備えて授業時にトランシーバーを携帯するのも良いと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・非常食の取り組みが素晴らしいです。<br>・防災は色々と問題があると思いますが、多面からの考察がされており、素晴らしいと思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・学校外での災害時、安否確認アプリを活用してください。<br>・アクションカードの作成から訓練までの流れがしっかりと設定されていることに感銘を受けました。カードを作成するだけでなく、繰り返し訓練を実施している点が良かったです。非常食もクオリティーが高く、驚きました。 |
| 7　学生の募集と受け入れ | 7-34<br>学生募集活動は、適正に行われているか | 大阪府専修学校各種学校連合会の規定に基づき、適正に行っている。広告倫理委員会・個人情報保護委員会などを設置し管理している。適性を判断するための判定会議が設置されている。 | 学力レベルの低下に対する合格決定後の指導の充実はもとより、入学前における職業への理解や意思の確認、モチベーションの持続に努力しなければならない。特にコロナ禍により経済的に不安定な学生のフォローもしっかり行う。 | 2.6 | 【高等学校】<br>学力レベルの低下は高等学校でも大きな問題となっています。大変ではありますが、ご指導よろしくお願いします。<br><br>【歯科技工士学科】<br>業界としても全体的に学生募集は難しいと思いますが<br>未来の技工士を増やすため引き続きよろしくお願いします。<br><br>【救急救命士学科】<br>早く入学が決定した新入生のフォローも欠かさずお願いします。 |
| 8　財務 | 8-38<br>中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。 | 学生募集の成功および中途退学者の減少を目指す。 | 2.7 | 【高等学校】<br>定員の充足は素晴らしいことです。引き続きよろしくお願いします。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・入学者数が多いところが素晴らしいと思います。<br>・夜間部を閉鎖する学校が増えている中、学生が集まり、楽しく学べているのは学校全体の学生への想いの成果だと思います。 |
| 9　法令等の遵守 | 9-43<br>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。学校内で個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。 | 学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員や講師、学生において更なる理解が必要である。教職員全員が個人情報の知識向上のため「認定CPAアカデミック（個人情報取扱従事者）資格」を取得 | 2.8 | 【歯科技工士学科】<br>個人情報は管理の徹底が必要だと思います。<br>教職員一丸となって取り組んでください。<br><br>【柔道整復師学科】<br>CPAアカデミック資格を非常勤講師も毎年実施していることが素晴らしいと思います。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 10　社会貢献 | 10-46<br>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 学校の教育資源を活用した教育機関や企業、業界との連携は重要であると考え取り組みを行っている。<br>学校関係者以外が参加可能な講習会や講演会が実施されている。昨年度はコロナ禍により、中止された取り組みも多かったが、毎年行っている献血活動においては5月30日と10月22日の2日間実施し、合わせて過去最高の209名という実績を出すことができた。 | 専門教育のみならず、目指す業界の動きや情報を得ることは重要である。今後も企業や業界との連携を強化していきたい。<br>また重要な社会問題についての認知と理解、それへの取り組みはキャリア教育の観点からも重要であり今後も取り組んでいきたい。<br>キャリアセンターの活動の更なる充実を目指していく。コロナ禍という現状でも取り組めることを模索していく。 | 2.6 | 【高等学校】<br>高齢化に伴い、歯科技工士は重要な職種になると思います。より一層の向上をよろしくお願いします。<br><br>【救急救命士学科】<br>医療系の専門学校を代表して地域の災害訓練に参加しても良いのではと感じます。それぞれの専門職が災害時に何ができるかを考える良い機会になると思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・献血など社会貢献活動にも注力されていると感じます。卒業後も各自続けていただきたいと思います。<br>・地域や企業との連携は素晴らしいので、引き続き継続していただきたいです。<br><br>【柔道整復師学科】 |
| 11　国際交流 | 11-48<br>グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか | 従来は各学科の専門性を考慮した海外研修が行われているが令和4年度はコロナ禍により中止。現状でも行える国際教育プログラムとしてオンライン研修などを実施。 | 現状で実施できる各学科海外研修の更なる充実に向けたイノベーションが重要。これまでの取組みにこだわらず、オンラインを駆使し学生にとって有益なプラグラムを構築していく。 | 2.4 | 【歯科技工士学科】<br>厳しい情勢ではありますが、海外研修を復活していただきたいです。<br>海外就職のきっかけにもなりますし、何より就職してからは経験できない部分も多いと思います。<br><br>【救急救命士学科】<br>・実際に現地に赴き、触れることは重要だと思います。しかし、経済的理由で参加できない学生もいるため、オンラインで実施するのはいかがでしょうか。<br>・海外研修は自国を見る上でも良いことだと思うので1人でも多くの学生に参加してもらいたいと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・情勢の問題はあるものの知識向上を目的とした研修が多くあるのは良いと思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・コロナの感染対策を考えると急がずゆっくり検討した方が良いと思います。<br>・学生時代を振り返ると海外研修は参加するべきだったと後悔しています。行けるようになることを願っています。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【歯科技工士学科】

令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による

評価委員氏名【 船木　昭治、田中　利哉、小塩　寛至 】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | DT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | オールセラミッククラウン、CAD－CAM、顎顔面補綴など現在の業界の方向性を考えた実習を取り入れる他、即戦力を求められるため臨床模型実習を実践している。 | パソコンの操作が苦手な学生もいるが、歯牙の形態や機能を基礎実習・講義で理解させながら、デジタル技工の基本操作を継続指導する。 | 2.7 | 【船木】<br>デジタルカービングの教育が必要だと感じます。<br><br>【田中】<br>デジタルを積極的に取り入れており、素晴らしいと思います。<br><br>【小塩】<br>将来増えるであろうCAD-CAMの授業を増やしていただきたいです。 |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 実技を中心とした教育内容であるため、その作品で到達目標が確認できる。<br>客観的評価方法の研鑽に努めるとともに講師とシラバス、コマシラバスを再確認し実習指導に反映させる。 | 課題(作品)の完成度には個人差が生じるが、担当教員や講師による個別指導で根気強くフォローするよう努める。 | 2.3 | 【田中】<br>個人差をできるだけ平均化できるように努力することが求められます。<br><br>【小塩】<br>個人差はありますが、できるだけ個々に応じた指導を細かく伝えていく必要があると思います。 |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | 講師会議で担当講師と意見を交換し、カリキュラムを定期的に見直している。<br>全国歯科技工士教育協議会や歯科技工所協会、材料メーカーなど業界団体との意見交換を行っている。 | 業界のデジタル化が急速であるため教育の対応を加速する必要がある。<br>自宅での遠隔授業による教育も視野に入れ検討していく。<br>CADを定期試験にも導入し、就職試験対策にも活用していく。 | 2.7 | 【船木】<br>デジタル化が進み、コンプライアンスの遵守やセキュリティー教育の充実が必要だと感じます。<br><br>【田中】<br>非常勤講師との意見交換も密にできていると思います。<br><br>【小塩】<br>業界のデジタル化にあわせて学内でもデジタルを促進していく必要があると感じています。 |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | シラバスにより科目ごとで指導内容や進行状況を把握できるようにしている。<br>各科教科ごとに教員間のコミュニケーションを密にし、科目間の連携も重視している。 | 基礎教育の段階では歯の形態をすべて把握することは重要であるが、歯の形態の理解にCAD機器によるデジタル手法を用いることも有効である。<br>教科目標と内容が解離しないよう留意しながら実施していく。 | 2.7 | 【田中】<br>今後もデジタル技術の進歩は早いために毎年情報を更新する必要があると思います。<br><br>【小塩】<br>業界ではデジタル、アナログ両方が必要であり、指導する側としてそれらを十分に把握して伝えていくことが重要です。 |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | キャリアセンターを中心にマナー教育・就職ガイダンス等、キャリア教育をおこなっている。<br>キャリアセンターと連絡を密にする。 | 日頃の各実習授業においても技術指導だけでなく、社会人基礎力の習得に繋がるような指導を心掛ける。<br>作品提出時には、振り返りとして、各工程の意義・目的の理解度と、完成度を自己評価させる。 | 2.3 | 【田中】<br>今後も日頃から挨拶ができるよう、学生にご指導ください。<br><br>【小塩】<br>社会では提出期日を守ることが重要なので、学生の内に必ず身に付けるよう、根気強く何度もご指導ください。 |
| | 3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか | 学生の評価が業務の直接の評価であると考える。また評価が高ければ学生の満足度にも繋がる。<br>学生満足度アンケートを継続実施している。 | 学生アンケートから収集した情報は、フィードバックし、評価がよくないものに関しては、改善策を話し合い、改善していく。 | 2.7 | 【田中】<br>学生アンケートの試みは良いと思います。<br>もっと非常勤講師とも共有ができればなお良いです。<br><br>【小塩】<br>学生アンケートはとても大事な意見なので、一問一答よく理解して、授業に活かせるよう具体的に取り組んでください。 |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 講義科目、実技科目共に専門性、臨床経験を兼ね備えた教員で取り組んでいる。<br>教員各自がグループ校全体の研修や業界が開催する研修会に参加している。 | 業務をおこなう上で最も大切なことは、ソフト面（教員）であり、教員が成長していける環境作りが重要である。<br>そのための情報交換は専任教員・非常勤講師ともに高い水準を維持できるよう取り組んでいる。<br>今後も外部講師との授業の事前打ち合わせや、終了後の意見交換も重要視していく。 | 2.7 | 【田中】<br>引き続き外部講師との意見交換もよろしくお願いします。<br><br>【小塩】<br>業界では個人ラボが全体の70%を占めており、偏りがあるので直接訪問し、情報交換ができる環境づくりが必要だと思います。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 在学中、キャリアセンターと連絡を密にしながら就職完了まで取り組んでいる。<br>年度報告資料を作成することにより、具体的な件数は掌握できている。<br>個人面談を中心に本人、保護者の理解を得ながら就職活動を進めている。 | 近年、コロナ禍の影響もありSNSを利用した企業説明会や求人活動を行う就職先が増加している。十分とは言えないが、卒業生からの情報にも柔軟に対応出来ている。<br>卒業後の情報収集が必要となるため、同窓会の協力も得ていく。 | 2.7 | 【田中】<br>非常勤講師と連携し、就職先の情報交換もできるとより良いと思います。 |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 合格率100%が維持できている。 | 国家試験対策では、模擬試験受験後の解答解説が重要と考える。<br>今後も講義において、一部遠隔で講義を受けた経験がある学年が国家試験取得を目指していく。<br>再度感染拡大状況になっても、モチベーションや集中力の低下を起こさないような授業の継続を目指す。 | 3.0 | 【田中】<br>今後も合格率100%を維持する努力をしてください。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【救急救命士学科】

令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による　　評価委員氏名【 深野 明美 ・渡辺 真季・ 森本 幸夫 】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ELT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3 教育活動 | 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界のニーズは公務員と民間で異なるため、非常に幅広い。<br>資格を取得しただけでは就職が(公務員試験の倍率が高く)困難である。したがって、救急救命士として基本的なことは勿論、社会人としても非常に高い一般知識・教養を求められる上に体力(体力試験)も要する。<br><br>法律の改正から病院内救命士の採用も増えている。<br>国家試験対策の会議を学科内で実施し、現状と対策の改善点について情報共有している。<br>業界の求める救急救命士の養成には更なる努力 | ①公務員試験対策のさらなる充実させる。<br>（試験種別への対応と作文など）<br>②即戦力としての要素を備える教育を行う。<br>（実習授業内容をより現場に即したものへ）<br>③業界の求める人材養成に向けての情報収集からカリキュラムの再構築をする。<br>（院内救命士等消防以外の就職先を想定）<br>④専門職採用受験できるように早期の底上げが必要である。<br>（3年生前期までに国家試験に合格できるレベルの教育を担保） | 2.0 | 【渡辺】<br>業界のニーズに対応するために工夫されている点をもう少し具体的に伺いたいです。<br>クラス分けなどにも注意を払えると良いと思います。 |
| | 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 3年の教育期間の中で夜間部でも最低限の基本的な内容は網羅したカリキュラムとなっている。<br>昼間部においてはさらに実習や公務員試験対策にゆとりを持った内容である。<br>いずれの科目も到達目標・評価の基準を公表、実習においては客観的な評価が行えるよう効果測定の基準を設けている。 | ①半年・年間の学習効果を見極める。<br><br>②昼間部に比較し夜間部の成績の伸び悩み、多種の理由は考えられるが均等化を図る。<br><br>③実習については、特定行為・ショック傷病者に対する処置に重きをおくが、所期の目的である「傷病者の苦痛を軽減する」基本的処置の指導を行い、現場対応能力を高める。 | 2.0 | 【森本】<br>救急現場の半数以上は軽・中等症であり、患者対応と接遇が大半を占めるため、実習時も現場に適応した実習が必要だと思います。 |
| | 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか | カリキュラムの編成は学科の教育目標を基礎に、資格取得に関わる指定基準を満たしている。<br>全ての履修科目を必修とし、学生に統一した内容が教育できるようにしている。<br>また、授業時間以外にセミナーや補習を設けて学生のレベルの統一化を図っている。 | ①同じ履修科目でも昼夜間部で担当講師・専任教員が変わる場合があるため、教育内容に差異がないようシラバス等の共有を強化する。<br><br>②セミナーの種類や回数を増やし授業外の教育の充実を図る。 | 2.0 | 特記事項なし |
| | 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | 各科目は適正な位置づけをされている。<br>現在は学校ホームページにて統一シラバスを掲載し常に閲覧できるようにしている。<br>学生にもシラバスの重要性についてオリエンテーションで周知することを継続している。<br>コマシラバスについても必要性の説明と協力依頼(専任がまず作成)の継続が必要である。 | ①外部講師が担当していた分野について専任教員で新たに役割分担し授業を行う体制を構築していく<br><br>②講師には”統一シラバス”をもとに授業構成をお願いしている | 2.0 | 【渡辺】<br>実習とリンクさせるため専任教員で授業を担当することは良いことだと思います。 |
| | 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | 実習の中で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーションや、問題解決能力をつける指導をすることで効果を挙げている。<br>グループ全体でキャリアロードマップを作成導入し、その重要性の認識を共通とした教育の実践を行っている。 | ①P(入学前教育)I(導入教育)B(基礎教育)A(応用教育) P(卒後教育)をもとに実践力を身につける<br>②就職説明会、講演、イベントのボランティアに参加することで社会とふれあい職業人としての知識・技術を身に付ける。<br>③職業人として必要である意思決定能力及び課題や葛藤に 積極的に取り組み克服する精神力の教育に努める。 | 2.0 | 【渡辺】<br>卒後教育としてどのようなことに取り組まれているのか伺いたいです。<br><br>【森本】<br>即戦力になりうる救命士としての知識はあるが、就職後のコミュニケーション能力が欠けているところがあるので実習時に対応が必要だと感じています。 |
| | 3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか | 学生による授業評価から得られる情報は教育システムの確立・見直しに有用と考えている。<br>ただし、医療系国家資格を取得する学科として学生の多様性問題(学習習慣の欠落、集中力の低下及び持続不能)による低評価も考えられるため内容の分析には十分な検討が必要である。 | ①年に1度学生満足度アンケートをもとに授業評価を得ている<br>②実習等、学生に対する共通事項を取り決め、学科全体での共通認識を図り取り組んでいる。<br>③キャリアサポートアンケートにより、学生個人ごとのサポート領域とキャリア教育領域について評価結果を数値で確認できる。<br>その結果を踏まえ面談実施。 | 2.0 | 【深野】<br>学生の多様性は非常に悩ましいことだと思います。職業人としての適性があるかどうかを見極めることが重要です。<br><br>【渡辺】<br>学生満足度アンケートの内容や学生から出た意見など共有いただきたいです。 |
| | 3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 本校の建学の理念「実学教育」に基づき、消防・臨床経験のある教員で学科教員を構成してきた経緯があり、それぞれの現場での経験は豊富であるが統一した教育への努力が継続して必要である。<br>また、現場を離れて年数が経つと日々の業務に忙殺され新しい取り組みが後回しになることがある。<br>現状の業務と新しい取り組みとのバランスのとり方が今後の課題となる。<br>いずれにしても各立場から「理想的な救急救命士の教育とは何か」を常に考え他者と協議しながら教育を実践していかなければならない。 | ①救急救命士関係機関との連携を強化する。<br>②研修・学会等の参加で得た情報を学科で共有し最新の情報を学生に還元する。<br>③教員は各種セミナーを通して知識・実技の確認と質の担保を行っている。<br>④新任教員に対する指導能力向上のための研修を充実させる。<br>⑤学生への指導内容を事前に協議し、実習における効果測定のあり方について見直しを図る。 | 2.0 | 【渡辺】<br>新任教員への指導は重要です。継続して実施してください。 |
| 4 教育成果 | 4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 専門性を活かせる就職先が公的機関（消防）である場合が多い。<br>自治体単位での試験遂行のため、就職試験の多様化・複雑性があり、対策を立てる上での困難がある。<br>これについては公務員対策教員との情報共有に努めている。<br>卒業生を含めて少しずつ希望職種に就職できるように指導できている。<br>今後は知力・体力・精神力共に更なる向上が得られるよう努力を要する。 | ①消防機関で勤務する卒業生等からの情報を集め、学生へ情報を提供している。<br>②各種イベント（OBOGガイダンス、就職説明会）をより一層の充実を図る。<br>③民間企業への就職先の拡充に努める。 | 2.0 | 【渡辺】<br>既卒者である夜間部学生の就職サポートもお願いします。 |
| | 4-20 資格取得率の向上が図られているか | 一定の基準で判定を行うことにより、合格率は維持できている。<br>しかし、一定の基準に達しない学生については早期の取り組みが必要となる。<br>留年者など出さぬように講師と学生の状況などを確認しサポートしなければならない。 | ①1年・2年次での学習を徹底し、3年進学時には合格ラインまでに到達できているよう取り組む。<br>②卒業判定は一定基準を設け、それに対する対策を行う。<br>③昨年、一昨年に行った対策を基礎とし、各期生に合った対策を行う。 | 2.0 | 【森本】<br>入学時の学生人数で全員卒業が理想ではありますが、難しい部分も多いと感じています。<br>一人の教員が受け持つ学生数が多く、大変ですが、学科教員全員で対応してほしいと思います。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【鍼灸師学科】

令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による　　評価委員氏名【　富永　礼子、丸茂　美保子 、松本　佳之　】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | AMT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界の人材ニーズは社会人基礎力（マインド・スキル）・コミュニケーション力が備わった人材である。次に、基本的な知識技術が備わっており、幅広く柔軟、かつ即戦力となる知識・技術を備えていることである。人間性や社会性・技術や知識双方を備えた人材育成が重要であると考える。柔軟な思考を培うとともに、卒業後に遭遇するさまざまな場面に対応できるように指導している。 | 業界の一番のニーズは一言で人間力の高さであるといえるが、これは知識や技術を高める以上に難しさを感じる。人間力を向上させるための方法を探り実践していく。<br>教育と業界の現実が解離している場面も多く、現実との折り合いをつけていくこと、学生を啓蒙していくことの難しさが課題。養成校が高い水準を維持し、卒業生が業界をリードし業界を変えていく形を理想として学生を指導していきたい。 | 3.0 | 【松本】<br>前職でも卒業生を受け入れたことが数回あるが、<br>コミュニケーション能力が高い学生が多いような印象を受けました。 |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 科目ごと、学年ごと、そして卒業までの到達レベルをシラバス等で明示する。社会や現場で求められるレベルまで高めることが養成校の責務である。3年間を通じてそれぞれの目標を設定し、定期試験や模擬試験、認定試験・進級試験・卒業試験などにより確認している。また、卒業生のレベルが現場に適合しているか、随時就職先を訪問しヒアリングを実施している。 | 目標を数値化できるものはしていき業界の声を聞く機会を多く設ける。<br>卒業生の活躍をさまざまな場で紹介し、在校生や入学希望者を刺激する。 | 3.0 | 【丸茂】<br>現場の先生方にどんな学生を求めているかなど求める人物像を伺うのはとても良いことだと思います。 |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | 目標の達成度は個々により異なるが、達成できない者もいる。補習や個別相談などでフォローし、全員の達成を目指している。<br>非常勤講師や他校教員、卒業生からの情報収集、講師会議・外部施設における臨床実習・就職説明会・臨床実習専任教員による治療所訪問の実施、業団の会合参加など、多くの場で情報収集を試みている。教育課程編成委員会で有識者より意見や要望を聞き、教育内容に反映している。 | 教育は最終的な養成目標に到達させるために、無理なく成長できるタイミングやレベル設定が必要で、3年間を通じた大きな流れができているか、目標はそれぞれ適切な時期に設定されているか見直し、さまざまな意見を取り入れ改善する。 | 3.0 | 特記事項なし |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | それぞれのカリキュラムの内容が独立して成り立つものであると同時に、縦、横のつながりをもたせるよう位置づけする。シラバス・教務日誌によりおたがいの指導内容や進行状況を把握できるようにしている。 | 適正な位置づけはあくまでも平均値であり、学習進度が一致しない学生も少なからずいるため、それぞれの学年、時期ごとに点検する機会をもち教員間のコミュニケーションを密にする。 | 3.0 | 【富永】<br>学年を超えて教員同士が密にコミュニケーションを取ることが重要だと思います。 |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | キャリア教育が特に必要とされる昼間部の学生に対して、コミュニケーション学の授業のなかでおこなっているほか、接遇マナー教育・就職ガイダンス・コミュニケーション教育・マネジメント教育、社会人直前講座・キャリアNAVIなどを通じておこなっている。 | キャリア教育の重要性は近年重要となっている。<br>特別な講座のみでおこなうのではなく、日常での細かい指導のなかでもおこなっていかなければならない。専任教員の指導力が問われるため、各自のレベルアップを目指す。 | 3.0 | 【松本】<br>多くの学びを提供しているところがすごく良いと思います。 |
| | 3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか | 学生アンケートは個々の授業に関して学生の意見を収集するものである。不適切なものに関しては改善策を話し合い、実行している。 | アンケート結果は専任教員のみに公開されており、非常勤講師には希望時公開している。問題がある場合は外部講師にも改善策を講じなければならない。講師の先生方ともオープンに議論できる場を設け、さらに学生の満足度、実績をあげられるよう工夫する。 | 3.0 | 【富永】<br>専任教員内だけでなく非常勤講師にも情報共有が必要だと感じています。<br><br>【松本】<br>アンケートを取られているのは良い取り組みだと思います。 |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 資格要件の確認だけでなく、実績・実力ある教員を採用している。学生にとって利益があるか否かを総合的に判断する。 | 要件を満たしている教員は確保できているが、まだまだ実績・実力のある教員も存在する。現代の学生像にあった教員を確保するのも重要である。特別講義を多く企画し、さらに学生を刺激しモチベーションをあげていく。 | 3.0 | 【丸茂】<br>特別講義の内容と講師陣が素晴らしいです。学生の刺激となり、モチベーションアップにも繋がると考えます。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 就職担当教員に加え、キャリアセンターも設置し在校生の就職、あるいは卒業生の職場の転向も含めてサポートしていく。 | 就職先の確保は順調だが、より質の高い就職先の確保を目指して努力・工夫していく。特に早期の学生の意識づけが大切となる。業界のニーズに合わせて早期の就職説明会を実施している。早期内定から国家試験へのモチベーションを高めるように努める。 | 3.0 | 【丸茂】<br>学校独自の就職説明会が開催できるのは素晴らしいと思います。<br><br>【松本】<br>就職に対しての学校の姿勢に好感が持てました。 |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 安易に留年生を多くだすことによって合格率100%を目指すのではなく、全員受験を本分としてきた。留年生を含む本当の合格率は他校と比較しても相当高いものと思われる。最終目標は入学者数＝国家試験合格者数である。今後は真の合格率100%を目指していきたい。 | 昨年度は卒業不可1名・不合格者5名となった。昨年度の反省を踏まえ今年度こそ3年生全員受験・全員合格を目指す。そのためにも低学力者に対する早めのアプローチを心掛ける。 | 3.0 | 【富永】<br>卒業不可、国試不合格者の減少を望みます。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【柔道整復師学科】

令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による　　評価委員氏名【　徳山　健司、小澤　庸宏 、正木 大吾、高野 公輔 】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | JT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界ニーズを把握しつつ、治療家として必要となる人間力の強化に主眼を置き、柔道整復師の業務範囲を逸脱することのないように、基本的な知識、技術を習得させるように努力が必要と考える。<br>人間力については特にコミュニケーション能力が人と関わる上では最重要事項であると認識しており、それが即戦力としての強みになると考えている。 | 入学前よりコミュニケーションの重要性を周知させており、入学後すぐの学内オリエンテーションや学外オリエンテーションを通じ、学生自身が積極的に行動するような仕組みを作っている。また自己点検自己評価により業界ニーズの聴き取りも実施する。 | 2.3 | 【徳山】<br>アクティブラーニングの活用と学生主導の授業への取り組みをよろしくお願いします。 |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 国家資格取得が業界に入るための最低限の知識レベルであり、また患者とコミュニケーションを図ることができるものが一般的社会人としてのレベルと考える。現状、上記内容を履修もしくは習得することが手いっぱいでありそれ以上の成果をカリキュラム内で修める事は難しいと考える。 | 新年度が始まる際に各学年における到達目標・数字基準を明確に伝え、また規約として明示している。<br>カリキュラム内のみで業界の求める即戦力の人材育成は難しい業界セミナーや勉強会を積極的に学生にも発信し、プラスαを補う。 | 2.0 | 【高野】<br>セミナーについて毎週実施するなどもう少し回数を増やした方が良いと思います。 |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | 3年間のカリキュラムは入学前から卒業後までを俯瞰的且つ論理的に編成、展開できるように組んでいる。学期ごと、科目ごとにそれぞれ目標設定し、達成の有無を機敏に察知する必要がある。<br>学生便覧や内規により明示し、入学する前から目標達成のイメージが出来るようになっており、入学後にオリエンテーション資料などを使い学年毎に周知させている。 | 3年間通して完成を設定してカリキュラムを作成している。<br>学生に設定した目標を認識させ、到達の大切さを折に触れて説く。これは担任だけでなく、専任教員が協力し合って学生達の成長を育む。<br>また、非常勤講師への協力を得る。<br>今年度の1年生より新カリキュラムとし開始し教育の充実を図る。 | 2.8 | 【徳山】<br>卒業前から卒業後に向けての先を見据えたカリキュラム設定をお願いします。<br><br>【小澤】<br>教員と学生との距離が良い意味で近い学校だと感じています。今後も学生の身近な存在として寄り添ってあげてください。<br><br>【正木】<br>各論の授業を臨床経験者である非常勤講師が教えている点が良いと思います。 |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | 各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをし、教育指導要領で明確に提示している。<br>専任教員、非常勤講師への授業依頼の段階で授業内での齟齬が出ないよう調整する必要がある。また前期の開講初日までには通年全てのシラバスを回収する必要があると考える。 | 柔道整復師の業務範囲の拡大の基礎を固めるために、より適正なカリキュラム、科目設定を行い、前年度後期下旬には全シラバスを回収する。また、チェックして必要があれば進行予定などの変更依頼をかける。 | 2.3 | 【小澤】<br>基礎を固めることが大切だと感じています。 |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | 本学科では人間力強化に主眼を置いており、キャリア教育をカリキュラムの主軸とし展開している。<br>全ての教員はキャリア教育などの研修を受け、さらなる知識、意識の向上を図る必要がある。 | 入学前からキャリア教育を中心に指導を行っている。在学中の実効性は3年次に行われる認定実技試験などにより確認を行い、卒業後はキャリアセンターを中心とした業界評価での検証を行う。 | 2.3 | 特記事項なし |
| | 3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか | 授業評価を振り返ることでよりよい授業を実践しなければならない。<br>教授方法のマニュアルはなく各教員のスキルで教授することとなるため、学生アンケート結果を教員にフィードバックし個々に足りない部分の気付きを得、授業レベルの向上を図る必要がある。 | 学科独自の授業アンケート（満足度アンケート）を継続し、学生からの意見を収集する。<br>またFD研修を行い、授業内容を改善すべく、各教員の気付きを得、そして学生に還元するよう努める。 | 2.3 | 【徳山】<br>今後想定されるカリキュラムの改訂に向け、教員の質の向上が求められます。<br>この点を念頭において学科内で検討よろしくお願いします。<br><br>【小澤】<br>学生の生の声を聞くことができる内容で素晴らしいと思います。<br>教員側の意識向上にも繋がると思います。<br><br>【正木】<br>学生アンケートの結果を各講師が確認できるようにして欲しいです。 |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 指定規則の基準を満たすのは当然のことであるが、育成目標を達成できるための素養、要件を各教員は備えるべく努力し、当校の学生に対する教育の考え方、また業務に対する考え方を理解する姿勢が必要となる。 | 教員自身の付加価値を上げるためにも専門性の向上は必須とし、各教員ができるだけ特化した専門性を持つべきと考える。そのため、外部機関の教育活動、セミナーや研修などへの参加を積極的に奨励し、学会への研究発表、講師との研修、学内研修などを行い専門性の向上を図る。 | 2.8 | 【小澤】<br>研修や資格を通して、新たな柔道整復師としての働き方を指導されているように感じます。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 専門就職率100%だけでなく、希望する就職先への就職率をも100%が必須と考える。<br>学生の就業意欲を高めるために教員、キャリアセンターからの徹底指導が必要である。<br>就職先の確保のため上記同様に連携して、業界への訪問、業界からの認知を高めるため就職説明会の実施が必要と考える。 | 学生の就業意欲を高めるために教員、キャリアセンターからの指導を徹底、ならびに就職先確保のため定期的な業界への訪問、業界からの認知を高めるために就職説明会を定期的に実施することが重要である。 | 2.5 | 【徳山】<br>先生方にも業界側の視点を持って就職先の見極めに携わっていただきたいと思います。<br><br>【小澤】<br>キャリアセンターを通じて、連携が取れている点が事業所としては大変ありがたいです。 |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 国家試験合格率の目標数値は100%である。<br>入学時より低学力と判断できる学生への対応に務めている。国試合格率の高水準をキープするためにはシステムが必要であると考える。<br>年度によっては意に反することもあれど、基本的には凡そ構築に成功していると考える。 | 学生全員が国家試験を合格させるため教員全員が授業・イベントなどについて良くなるよう常に考える必要性がある。そのため、グループ力を活かした独自の取組も持つ。<br>学生たちに対して「勉強はやらなければならないものである」ことを認識させ、勉強に対する当事者意識を付けさせるよう、面談、終礼など折に触れて声掛けを行う必要がある。 | 2.8 | 【正木】<br>イベント性を盛り込みながらより良い授業づくりに励まれていると感じます。 |